

ゆかしき まち 縁織の町

—ゆかりある空間のおりなすまち—

—地域に縁ある活動のための空間が織り成すまちの将来像、それが『縁織の町』—

① 市街地整備の目標及び方針

街区内の低未利用空地や隙間の空間などを、糸を織り成すように、地域の魅力ある歴史的資源と結びつけることで、地域や歴史に縁のある活動が繰り広げられるネットワーク空間（“おりなす空間”）を創出する。

② まちづくりの方針

□住みよい安全・安心のまちづくり

- “おりなす空間”により、
 - (1) 子どもが安心して活動できる場、
 - (2) 緊急車両等が十分展開できる防災に強い場、
 - (3) 緑豊かな場、
 - (4) 地域活動を活性化する場、を提供する。

□中心市街地の一翼を担う活気あるまちづくり

○伝統工芸や地域産物等を「住まい」つつ、「育成し」、「魅せる」（商い、展示する）場所として対象地区を機能させる。

○場所別に以下の機能を重点配置し“おりなす空間”等の利用を通じ実現させる。

- (1) 住宅地側：「住まう」機能
- (2) 清住町通り側：「魅せる」機能
- (3) 中間の都市計画道路沿道：職住一体型の「育成する」機能（例：フリースペースを持つ中層集合住宅群や職住一体型工房など）

○都市計画道路沿道では、地区南・北・東側で、各個性を活かす景観を形成する：

- (1) 都心環状線（東側）：寺社境内と一体の縁日的沿道空間による『なつかしさとにぎわいの景観』
- (2) 都心環状線（南側）：移動空間を確保し『にぎわいと落ち着きの調和した景観』
- (3) 宇都宮日光線：職住一体の『街道的な緑と落ち着きある景観』

□歴史的資源を活かしたまちづくり

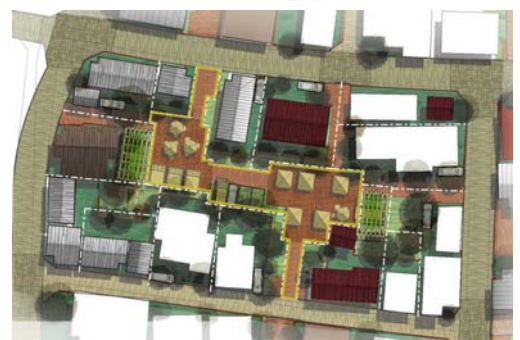
○清住町通りで、“おりなす空間”は、参道的で歴史とにぎわいのある空間として機能させる。

- 遊休地等を活用し、縁日のような仮設店舗を展開し、将来の街並み形成に貢献する店舗の担い手を育成。
- “おりなす道”と見世蔵等歴史的建築を利用し、工芸・産物等地域資源を魅せる場として活用。

③ 実現化方策

最低限の土地区画整理事業を主に様々な手法を組み合わせ実現する。

(1) 街区単位の調整型土地区画整理事業、(2) 地区計画や景観形成重点地区による街並みや空間の担保、(3) まちづくり組織を主体としたエリアマネジメント など



清住町通りのイメージ